



TITLE:

陰茎悪性黒色腫の1例

AUTHOR(S):

渡辺, 徹; 蔵, 尚樹; 山田, 拓巳; 根岸, 壮治

CITATION:

渡辺, 徹 ...[et al]. 陰茎悪性黒色腫の1例. 泌尿器科紀要 1991, 37(6): 637-639

ISSUE DATE:

1991-06

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/117200>

RIGHT:

陰茎悪性黒色腫の1例

春日部市立病院泌尿器科 (部長: 根岸壮治)

渡辺 徹, 蔵 尚樹, 山田 拓巳, 根岸 壮治

A CASE OF MALIGNANT MELANOMA OF THE PENIS

Toru Watanabe, Naoki Kura, Takumi Yamada
and Takeharu Negishi

From the Department of Urology, Kasukabe City Hospital

An 83-year-old male presented in October, 1988, with pigmented tumor lesions on the penis. The main tumor mass accompanied with necrotic bleeding, measuring 5 cm in diameter was located on the fore skin and glans penis. On the proximal shaft of the penis, there were three other black tumors, measuring from 0.5 to 3 cm in diameter. The distal urethra of the penis was clinically involved in the tumor mass and bilateral inguinal lymph nodes were palpable. Chest X-ray and liver scan both revealed multiple metastases. Tumor biopsy confirmed malignant melanoma. Phallectomy and bilateral inguinal lymph node biopsies were performed in October, 1988. Pathological findings revealed that a malignant melanoma had developed from the fore skin and glans penis, extended into the penile urethra and metastasized to bilateral inguinal lymph nodes. The patient gradually deteriorated in general condition and died of cancer 28 days later. The prognosis of malignant melanoma of the penis seems to be extremely poor.

(Acta Urol. Jpn. 37: 637-639, 1991)

Key words: Malignant melanoma, Penis

緒 言

悪性黒色腫は近年増加しつつあるが、泌尿生殖器に発生することは比較的稀であり、陰茎癌の中でもきわめて少ない。今回われわれは陰茎に原発したと考えられる悪性黒色腫の1例を経験したので文献的考察を加え報告する。

症 例

患者: 83歳, 男性, 無職

主訴: 陰茎亀頭部の腫瘍

初診: 1988年10月3日

既往歴・家族歴: 特記すべきことなし

現病歴: 1988年10月になって排尿障害が生じ某医受診し、当科を紹介された。発症の詳細については患者が高齢のため不明である。

現症: 身長 145 cm, 体重 42 kg, 栄養状態中等度。胸部および腹部理学的所見は異常なし, 精巣, 精巣上体は異常なく, 前立腺はやや腫大しているが表面整, 弾性硬で硬結は認めなかった。陰茎亀頭部全体に壊死性出血を伴い, 褐色の中にやや黒色を帯びた不均一の

斑状で辺縁および表面不整な直径 4 cm 大の腫瘍を認め, 陰茎根部に黒色で拇指頭大の腫瘍1個と小豆頭大の腫瘍2個を認めた (Fig. 1)。また, 外尿道口より約 3 cm の近位側尿道に拇指頭大の腫瘍および両側鼠径部に数個の腫大したリンパ節を触知した。

入院時検査所見:

末梢血: 軽度貧血。血液生化学: LDH 2,330 mU/ml, Alp 442 mU/ml と高値, TP 5.8 g/dl, Alb 3.6 g/dl と低値, 電解質は正常。尿所見: 蛋白 (+), 糖 (-), RBC 30~50/hpf, WBC 無数/hpf, 尿培養 *Pseudomonas aeruginosa*, *Proteus vulgaris*。心電図・Wandering P波。胸部 X-P: 肺野全体に多発性転移巣を認めた。腹部 CT: 肝臓全体に多発性転移巣を認めた。

手術および術後経過: 10月13日に膀胱瘻造設と亀頭部の腫瘍の生検を施行し, 悪性黒色腫と診断された。10月24日に陰茎切断術と両側鼠径リンパ節生検を施行した。肉眼的に陰茎亀頭部の包皮から白膜に達した 5 cm 大の腫瘍が見られ, それとは不連続性に陰茎根部と鼠径リンパ節に, 0.5~2 cm 大の多発性腫瘍が観察され, 陰茎亀頭部包皮に原発した腫瘍がそれらに転

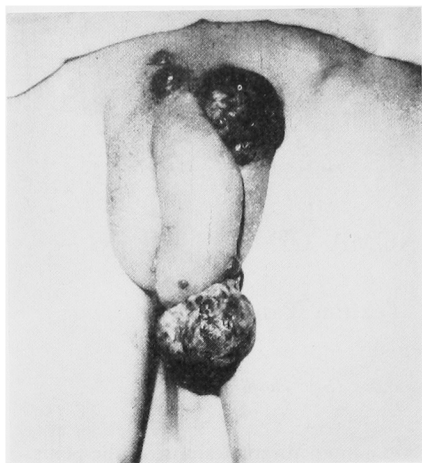


Fig. 1. Melanoma of glans penis.

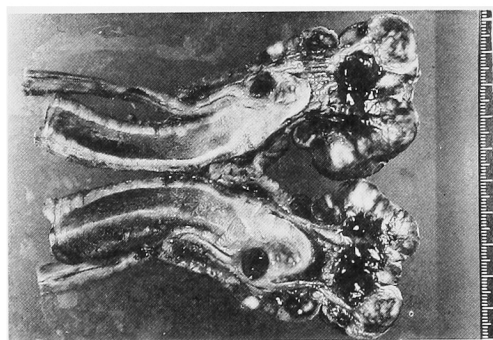


Fig. 2. Phallectomy specimen with melanoma developing from fore skin and extending into penile urethra.

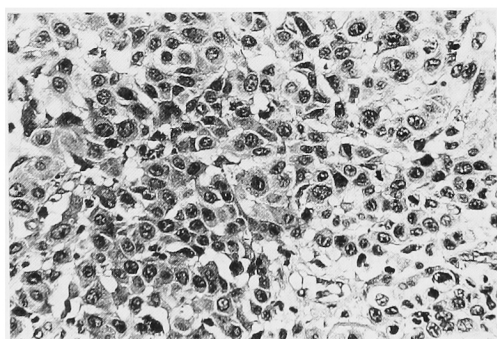


Fig. 3. H-E staining of the specimen shows spindle type of cells containing melanin pigments; original magnification: $\times 100$

移したと思われる (Fig. 2). 術後、抗悪性腫瘍剤による化学療法を施行する予定であったが、イレウス等の合併をおこし全身状態不良のため施行できず、11月

21日死亡した。術後28日目であった。

病理組織学的所見：表面は潰瘍による広範な壊死を有し、腫瘍は充実性に増殖していた。腫瘍細胞は紡錘細胞型で真皮内増殖を呈し、核は円形ないし楕円形を呈し、核小体がやや目立ち散在性に核内封入体もみられた。腫瘍細胞に一致してメラニンの沈着が多くみられた (Fig. 3)。

考 察

悪性黒色腫はメラノサイトあるいは母斑細胞の悪性化といわれ、人種や環境によりメラノサイトの存在量が異なり、発生母地はかなり多様である。

発生頻度は本邦では年間10万人あたり0.3人であり、白人に比べ少ない¹⁾。陰茎に発生する悪性黒色腫はきわめて稀であり、本邦では森²⁾や大角ら³⁾によると悪性黒色腫中の陰茎原発はそれぞれ0.5%と0.8%であった。われわれの調べたかぎり現在まで自験例を含め14例の報告がある (Table 1)。

発生年齢は宮内ら⁴⁾の報告までは31歳～74歳で平均57歳であったが、自験例は83歳と最年長であった。

発生の好発部位は大部分が亀頭部であるが自験例では包皮が原発と思われた。

皮膚の悪性黒色腫にはいくつかの病型があり、分類不能症例も存在するが、一般につぎの4型に分類される。1)悪性黒子黒色腫 (LMM), 2)表在拡大型黒色腫 (SSM), 3)結節型黒色腫 (NM), 4)末端部黒子型黒色腫 (ALM) である。日本人 (黄色人種) では予後不良とされる ALM と NM が多く、陰茎悪性黒色腫でも ALM が多いとされている。自験例も辺縁不整、色は真黒、褐色で不均一、真皮内増殖を呈しており、ALM に相当すると考えられた。

治療は、stage 別に治療方針が定められ、Persky⁵⁾らは stage I, II では陰茎切断術と両側の腸骨・鼠径リンパ節の郭清が原則であり、さらに化学療法や免疫療法を追加する必要がある。stage III・IVでは、いわゆる集学的治療が必要であると述べている。

放射線療法や化学療法に対し感受性が低いといわれているが、化学療法での DAV や PAV 療法で約30%の感受性が認められる⁶⁾。

悪性黒色腫は一般に進行が速く、予後は悪い。石原¹⁾によると皮膚の悪性黒色腫全体では stage I の5年生存率は74.6%, stage II では15%, Stage III・IV では0%と報告している。しかし、陰茎原発の悪性黒色腫は Khezri⁷⁾ らによると stage I の14例中、5年以上の生存例は4例のみ26.7%で、予後はきわめて不良である。さらに、Begun⁸⁾ らは陰茎悪性黒色腫

Table 1. Reported cases of malignant melanoma of the penis in Japan.

No.	報告年	年度	年齢	初発部位	治療までの期間	治療	転移	予後
1	岡 安	1924	67	亀 頭	2 年	切 断	鼠径リンパ節	不 詳
2	永 野	1955	40	冠状溝	4 カ月	リンパ節摘出 化学療法	鼠径リンパ節 腸間膜	23 日
3	中野・ほか	1957	56	亀頭, 冠状溝	5 カ月	亀頭, 焼灼, 放射線, 化学療法	鼠径リンパ節	生 存
4	松 田	1957	72	亀頭, 冠状溝	1 年 6 カ月	切 断 鼠径リンパ節郭清	鼠径リンパ節	3 カ月
5	赤松・ほか	1958	31	不 詳	不 詳	不 詳	鼠径リンパ節	不 詳
6	後藤・ほか	1966	74	亀 頭	9 カ月	腫瘤切除	な し	1 年生存
7	高安・ほか	1970	50	陰 茎	不 詳	陰茎皮膚切除	な し	不 詳
8	勝目・ほか	1970	67	亀 頭	4 年	放射線, 化学療法	鼠径リンパ節	1 年生存
9	管田・ほか	1974	69	包 皮	1 カ月	切断, 化学療法	な し	1 年 4 カ月生存
10	高木・ほか	1981	33	亀頭, 外尿道口	4 カ月	切断, 免疫化学療法 鼠径リンパ節郭清	鼠径リンパ節	6 カ月生存
11	仙賀・ほか	1982	53	陰茎背面	2 年	免疫化学療法	鼠径リンパ節 全 身	3 カ月
12	斉田・ほか	1983	55	亀 頭	2 年 6 カ月	切断, 鼠径リンパ節 郭清, 免疫化学療法	鼠径リンパ節	2 年 9 カ月生存
13	宮内・ほか	1985	69	亀 頭	3 年	切 断	鼠径リンパ節 肺	生 存
14	自験例	1988	83	包 皮	不 詳	切断, 鼠径リンパ節 郭清	鼠径リンパ節 肺・肝	2 カ月

のうち43%は初診時すでに鼠径リンパ節への転移が認められると報告している。自験例も初診時に鼠径リンパ節, 肺, 肝に転移が認められ, すでに進行しており, きわめて予後不良の症例であった。

結 語

陰茎に原発したと考えられる悪性黒色腫の1例を報告した。陰茎悪性黒色腫は初診時すでに進行している場合が多く, 予後がきわめて悪いものと考えられた。自験例は本邦報告例として14例目にあたる。

文 献

- 1) 石原和之: メラノーマ治療の現況. 癌の臨床 25: 741-746, 1979
- 2) 森 亘: 日本人における悪性黒色腫. 癌の臨床

17: 245, 1971

- 3) 大角 毅, 清寺 真: 本邦における悪性黒色腫の統計的観察. 皮膚臨床 19: 277-283, 1977
- 4) 宮内武彦, 丸岡正幸, 長山忠雄: レックリングハウゼン病に合併した陰茎悪性黒色腫の1例. 泌尿紀要 34: 710-713, 1988
- 5) Persky L and deKernion J: Carcinoma of the penis. Cancer J Clin 26: 130, 1976
- 6) 石原和之: 癌の病態生理と薬物療法, 皮膚癌・悪性黒色腫. pp. 287-291, 薬事新報社, 1984
- 7) Khezri AA, Dounis A and Roberts JB: Primary malignant melanoma of the penis. Br J Urol 51: 147-150, 1979
- 8) Begun FP, Grossman HB, Diokno AG, et al.: Malignant melanoma of the penis and male urethra. J Urol 132: 123-125, 1984

(Received on June 25, 1990)
(Accepted on August 24, 1990)